

令和5年度 第2回 木の文化都市を継承・創出する金沢会議 発言要旨

日時：令和6年2月29日（木）10:00～11:30

場所：金沢市 第1本庁舎7階 第1委員会室

■議題：令和6年度の木の文化都市関係事業について

<金沢らしい取組について>

- ・ 金沢ならではの取組については、切り口を明快にするだけで、同じことをやっても全然違うと思う。木のしつらえ等でも、高級というだけでなく、職人や工芸技術でうまく使うなどの、金沢だからできることとつなげていくと、金沢らしさが明確になっていくのでは。
- ・ 木の文化都市・金沢というからには、建築ばかりではなく、工芸も活かすべき。木材の利用としても高く使ってもらう意味や、日常的に使う、ある意味消耗し、循環する意味でも重要。
- ・ 金沢らしさ、金沢産材なども安易に使うと危険な言葉、本質的なことをすべき。
- ・ 様々なものを木に戻そうというチャレンジを重ねることが、そのまま金沢らしさになるのではないか。是非そうあってほしい。

<木育について>

- ・ 木育は将来の木の製品を買いたいと思わせる予備軍ともいえる、木を五感で良さを感じるような教育も必要。
- ・ 子供の体験にこそ本物を求めるべき、壊れることを知るから大切にすることもある。木育というとへりくだりすぎる感じがする。金沢だからできる本物の体験があるのではないか。
- ・ 職人大学校はとても金沢らしいと感じている。本物の職業をしている人を通して木の文化を知る取組が金沢の木育としてできるのではないか。子どもに対しては、職人大学校の子供マイスタースクールで実際に、林業や、職人技術を体験している。これらをもっと活かせばよいが。

- ・ 教育という点では、市の施策であれば、総合的学習などの学校教育に活かすという点もあるのではないか。
- ・ 木育と文化についてミスマッチを感じる、子供向けのイベントというよりも、大人が子供を連れて行って見せたいというようなイベントや仕掛けづくりをすべき。

<金沢のプロの活用について>

- ・ 金沢の文化の良さを支えているのは玄人であり、本物を見せていくことで、興味を持つ人が増える。感動させるということが、行政サービスとは違い大切。
- ・ 学生のアイデアを金沢らしさとしていたが、やはり金沢に沢山いる建築・工芸などのプロの人の仕事を出していくことが大切ではないか。
- ・ 林業の現場を見せていただき気づきが多くあった、例えば林業と工芸が近くなることで新しいものが生まれるのではないか。これらのプロが現場に行くことが大切。
- ・ 工芸の作家さんが森を見ろというようなこと、かつて銘木を施主と職人が見て構想したようなものの現代版ができるといいが。

<林業関係について>

- ・ 林業に力を入れているまちでは、まちで木が沢山目に入ってくる。金沢市ではまだそうではない、そこを目指すロードマップをもう少し示すべきではないか。
- ・ 林福連携事業で、広葉樹苗の育成の話があったが、広葉樹林（クヌギ）は建材には使えないが木の文化都市・金沢と関係した文脈はあるか、山は何十年もかけて作るものなので、何のために作るのかが抜けると、とんでもないものになってしまう。
- ・ 木の文化都市が木を育てることも含めてだとすると、消費も想像しながら育てていく、大きなロードマップが必要ではないか。

- ・ 2つ目の方向性の合板については、地域産材消費の阿利バイ的に使われることもある。本来は、無垢の製材が上にあって、曲がり材などは集成材、端材はバイオマス燃料などそれぞれ順に使われることを目指すべきではないか。

<その他>

- ・ イベント等を手掛ける立場からすると、切り口の話で、言葉遣い一つで印象が変わるし、安易に木育などの用語を使うことで、本来来てほしい人に届かない恐れもある。
- ・ 昔は木しかなく、木でほとんどのものを作っていた。これをもとに戻すだけでなく、現代的な価値と、現在のデザインを含めてやる必要がある。

■議題：令和6年度取組について

<木材利用の促進について>

- ・ 多岐な事業を横断的にやることが求められる。市の様々な部局が何かをやる際に隙あらば木でやろうということが必要ではないか。
- ・ 木一本丸々をどこまで使えるか、山にこんな資源があるので、こんな使い方が出来るといったものを出すべき。
- ・ どのタイミングで採用されるかは解らないが、木を使う声が大きくなったときに準備されていることが大切で、できないと思っているものが出来ると思わせれば、みんながいろいろ考えてくれるようになる。
- ・ 木は使うまでに時間のかかる素材で、その使いにくさも含め、本来の良さを活かして欲しい。

<木の文化都市の将来像について>

- ・ 持続可能な都市の実現と言うが、伝建地区もあり金沢は既に持続している都市といえるのではないか。今まで続いていることをまずは見せ、その上

で建物を作ることが、それこそ持続性であり、これまでやってきたことの自慢をもう少ししても良いと思う。

- ・ 別のプロジェクトでかもしれないが、都市の思想として積み上げてきた思想とこれから先の未来の話、土俵を見直す機会があってもよいのではないか。
- ・ 木を生活に取り戻すということは、不便を我慢するのではなく、木を使って豊かさと楽しさが、今の合理化した内容になっていくことが重要今の技術を積極的にうまく使って、守りながら時代にあった生活といった姿も木の文化都市・金沢都市においては重要な要素ではないか。
- ・ 建物も含めて暮らしの中、営みの中に木があることが、後々文化として評価されるのではないか。これを目指して、人の営みについて大事に調整する取組があると良いと思う。

<その他>

- ・ 地震の後、木造だとか、古いだとかで、怖いと思っている人も多い、安全性等に関する取組もした方が良いのではないか。
- ・ 木は傷むことが当然の素材であり、交換することで持続できる、理解も含めたことが積み重なると、山としてはありがたいと思う。